

	0	1	2	3	4	5
1 CIF						
2 COF V						
3 COF F						
4 DEP 1						
5 DEP 2						
6 営R						
7 外 え						
8 外 ヒ						
9 ト エ						
10 ト ソ						
11 ぜまえ						
12 法( )						
13 ぜごり						
14 * * * *						
15 ぜまえ						
16 DEP						
17 外 え						
18 外 ヒ						
19 ト え						
20 ト ソ						
21 運 う						
22 た						
23 し						
24 小						
25 外えC						
26 外ヒC						
27 トえC						
28 トソC						
29 H C						
30 営CF						

↑ PL

↓ CF

1 旧び						
2						
3						
4 新び						
5						
6						
7 投CF						

1						
2						
3						
4						
5						
6						
7 財CF						

この順番は暗記してね。

使い方のサンプル  
H26 車例4 内2の一部

15mm

現場では横線は全部書く時間があつて  
"二重線"だけ引ける

15mm  
5mm x 30コ

	H26 0	H27 1	28-31 2	3	4	5
1 CIF	42,000	46,200	46,200			
2 COF V	10,500	11,550	11,550			
3 COF F	29,000	29,650	29,650			
4 DEP 1	2,000	3,000	3,000			
5 DEP 2						
6 営R	500	2,000	2,000			
7 外え						
8 外ヒ						
9 トエ						
10 トソ	0	2,000	0			
11 ぜまえ	500	0	2,000			
12 法(40)	200	0	800			
13 ぜごり	300	0	1,200			
14 * * * *						
15 ぜまえ	500	0	2,000			
16 DEP	2,000	3,000	5,000			
17 外え						
18 外ヒ						
19 トえ						
20 トソ		2,000				
21 運う						
22 た						
23 し						
24 小	2,500	5,000	5,000			
25 外えC						
26 外ヒC						
27 トえC						
28 トソC						
29 HC	△200	0	△300			
30 営CF	2,300	5,000	4,200			

2.5  
3.0  
5.0  
5.5  
6.0  
↑ PL  
6.5  
↓ CF  
11.5  
12.0  
14.5  
15.0

FCF

1 旧び						
2						
3						
4 新び						
5						
6						
7 投CF	—	0	0			
	2,300	5,000	4,200			
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7 財CF						

投資CF  
→ FCFはこの内から  
財CF  
かある場合は追加

これで計算用紙 B5に収まります。  
文字は 5mm の大きさに書く必要があります。



貸借対照表

平成 26 年 3 月 31 日 (単位：千円)

	資産の部		負債の部		同業他社
	D社	同業他社	D社	同業他社	
流動資産	200,000	400,000	流動負債	400,000	460,000
現金及び預金	100,000	250,000	支払手形・買掛金	80,000	120,000
棚卸資産	20,000	50,000	短期借入金	150,000	90,000
その他	80,000	100,000	未払金	70,000	100,000
固定資産	1,000,000	1,050,000	その他	100,000	150,000
有形固定資産	900,000	900,000	固定負債	600,000	480,000
建物・構築物	450,000	400,000	長期借入金	450,000	280,000
機械及び装置	100,000	150,000	未払金	50,000	80,000
車両・工具	50,000	80,000	その他	100,000	120,000
土地	250,000	200,000	負債合計	1,000,000	940,000
その他	50,000	70,000	純資産の部		
無形固定資産	30,000	30,000	資本金	20,000	100,000
その他固定資産	70,000	120,000	資本剰余金	80,000	160,000
			利益剰余金	100,000	250,000
			純資産合計	200,000	510,000
資産合計	1,200,000	1,450,000	負債・純資産合計	1,200,000	1,450,000

損益計算書

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日 (単位：千円)

	D社	同業他社
売上高	1,000,000	1,500,000
売上原価	280,000	450,000
売上総利益	720,000	1,050,000
販売費・一般管理費	650,000	975,000
営業利益	70,000	75,000
営業外収益	4,000	10,000
営業外費用	24,000	15,000
経常利益	50,000	70,000
法人税	20,000	28,000
当期純利益	30,000	42,000

第 1 問 (配点 24 点)

D社の貸借対照表、損益計算書と同業他社の貸借対照表、損益計算書と比較して、D社が優れていると判断できる財務指標を 1 つ、財務上の課題となる財務指標を 2 つ、名称 (a) とその数値 (b) (単位を明記し、小数点第 3 位を四捨五入すること) を示し、そこから読み取れる D社の財政状態および経営成績 (c) についてそれぞれ 30 字以内で述べよ。

なお、優れている指標については①の欄に、課題となる指標については②、③の欄に、それぞれ記入すること。

第 2 問 (配点 30 点)

D社のある店舗の平成 26 年度における予想損益計算書は以下のとおりである。売上原価は売上高に比例している。設備備品の償却は定額法 (取得原価 1,000 万円、残存価額ゼロ、耐用年数 5 年) で行われており、平成 27 年度期末で償却が終了し、改装のため取り替える予定である。しかし、この店舗の最寄駅では、平成 27 年 4 月 1 日の完成に向けて再開発が進んでおり、これに合わせて改装を早める提案がある。

ある店舗の平成 26 年度予想損益計算書 (単位：千円)

	売上原価	高価
売上	42,000	42,000
売上総利益	10,500	10,500
販売費・一般管理費	31,500	31,500
人件費	31,000	31,000
店舗賃借料	19,500	19,500
その他経費	3,000	3,000
減価償却費	6,500	6,500
営業利益	2,000	2,000

$29,000 + 650 = 29,650$   
 $2,000 + 1,000 = 3,000$   
 $6,500 + 1,000 = 7,500$   
 $29,650 - 7,500 = 22,150$

改装する場合、再開発イメージに合わせた改装やインターネット稼働などの充実のため、1,500 万円の設備投資額が見込まれている。設備投資は期間 5 年の定額法 (残存価額ゼロ) で償却される予定である。改装した場合は、販売費・一般管理費のうちその他経費が、平成 26 年度よりも 10% 増加すると見込まれている。

平成 26 年度期末に改装した場合、駅前の再開発との相乗効果により今後 5 年間の売上は平成 26 年度よりも 10% 増加すると見込まれている。一方、改装を平成 27 年度期末に行う場合、相乗効果が得られないため、平成 27 年度の売上は平成 26 年度より 5% 増加し、平成 28 年度以降の 4 年間は平成 26 年度より 10% の増加が見込まれている。

なお、再開発に合わせて改装を行う場合、現在の設備備品は平成 26 年度期末の帳簿価額で翌年度期首に除却されるものとする。

下記の設問に答えよ。

(設問 1)

平成 26 年度期末に改装した場合 (a) と、平成 27 年度期末に改装した場合 (b) について、それぞれの平成 27 年度の予想税引後キャッシュフローを求めよ。ただし、運転資本の増減はなく、法人税率は 40% とする。

(設問 2)

平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間における予想税引後キャッシュフローの正味現在価値を計算し、駅前の再開発完成に合わせて平成 26 年度期末に改装するか、予定どおり平成 27 年度期末の償却が終わるのを待ち平成 27 年度期末に改装するかを判断せよ。